

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

【ドル/円 週足】



■ 中長期展望

2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられました。

その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上後再び110円割れとなり、9月に入ってから107円32銭まで安値を更新しました。

9月に入ってからドル安・円高の背景には、米国のハリケーンによる経済への打撃などを背景としてFRBが年内後一回以上の利上げを行うとの期待が後退したことや北朝鮮リスクの高まりが挙げられるでしょう。

北朝鮮は、大陸間弾道ミサイルの発射や大規模な核開発実験など、米国をはじめとした国際社会へ

ドル/円相場のトレード戦略

の挑発を強めており、軍事的緊張の高まりがマーケットをリスク回避姿勢へと向かわせているといえます。

ただし、地政学的リスクからのリスク回避による円高は短期的には大きな変動要因といえるものの、中期的な為替相場の方向性は米国のファンダメンタルズに左右されると考えられ、実際に米国のハリケーンによる悪影響が予想よりも小さいものとどまるとの観測が出ると、ドルは 113 円台を回復する動きとなりました。

年末に向けては、12 月 FOMC で米国経済の堅調推移が確認され、さらにはトランプ政権による減税やインフラ投資などの財政政策発動が実現される可能性が高まればドルの上昇基調継続が期待され、これまで続いた 110 円～115 円の取引レンジが上方修正される動きとなるでしょう。

115 円をクリアーの上抜くと 116 円半ばが視野に入ってきます。

ただし、115 円水準をクリアー上抜けない場合は、110 円～115 円のレンジ相場継続がメインシナリオとなってしまうでしょう。

■短期展望

先週は、113 円半ばでスタートし、米税制改革法案の年内成立に対する期待感や FOMC での利上げ予想などを背景に 113 円 75 銭の高値を付けました。

しかし、FOMC の結果は予想通りで、利上げペースも緩やかなものが続くとの観測や米税制改革成立への不安感の台頭などを受け 112 円 03 銭まで下押し展開となり、112 円台半ばで週を超えています。

年内最後の大きなイベントである米 FOMC も終わり、マーケットはクリスマス休暇が意識され、年末に向け動きにくい相場となっていくでしょう。

米税制改革法案関連のニュースに乱高下する可能性はあるものの、一方向への大きなバイアスはないものと思われます。

したがって今週も、112 円から 114 円程度のレンジ相場継続がメインシナリオと考えられます。